

緊急地震速報への市民の対応：キャンパス公開来場者アンケートより
 Reaction of Citizens to EEW
 Derived from a Questionnaire Survey to Visitors of 2016 Uji Open Campus

○加納靖之・鈴木健士・片尾浩・坂上啓・橋本学・深畑幸俊・上山和也・宮崎真大・伊藤喜宏
 ○Yasuyuki KANO, Takeshi SUZUKI, Hiroshi KATAO, Kei SAKAUE, Manabu HASHIMOTO,
 Yukitoshi FUKAHATA, Kazuya UEYAMA, Masahiro MIYAZAKI, and Yoshihiro ITO

A questionnaire survey on Earthquake Early Warning (EEW) is performed at the open lab of 2016 Uji Open Campus, October 22 and 23. The volunteers from visitors of open lab answered questions on EEW at the time of the earthquake occurred at middle of Tottori prefecture on October 21, 2016. The questions are: (1) weather answerers stayed inside or outside, (2) weather answerers took action for self-protection, and (3) weather answerers took action for evacuation. 35% of answerers took action for self-protection and 5% of answerers took action for evacuation. The ratio of answerers took action for self-protection is less than that of survey made by JMA. The experience of large earthquake and shaking, and receiving EEW may cause the difference between residents around Uji and Kyoto, and other region in Japan.

1. はじめに

宇治キャンパス公開（2016年10月22日・23日）の公開ラボの企画のひとつとして、緊急地震速報への対応についての来場者アンケートを実施した。その結果を報告する。

当初、2016年4月1日の三重県南東沖の地震を対象として準備したが、2016年10月21日の鳥取県中部の地震の発生を受け、この地震を対象とすることとした。この地震では、緊急地震速報の発表時（第3報）の予測震度は、京都府南部は「震度4程度」（鳥取県中部では「震度6弱から6強程度」）であった。観測された震度は、宇治市や京都市で震度1から3であった。

地震研究者は、地震による被害の軽減にむけた地震学の成果のひとつとして、緊急地震速報を持ちだすことが多い。どの程度貢献できている、あるいは貢献できる可能性があるのだろうか？

2. アンケートの結果

鳥取県中部の地震の緊急地震速報を受信したひと（回答者）のうち、8割強（105人のうち87人）が屋内にいた。これは、平日日中で、学校での授業中、在宅など屋内にいた人が多いと思われる。

回答者のうち、35%（106人中38人）が「頭部を保護する」「机の下にかくれる」などの防御行動をとった。年代別にみると、10代で防御姿勢をとった比率が高い。これは、学校等での避難訓練の

経験によるものの可能性がある。

「ブロック塀や崖から離れる」「広く安全な場所に移動する」などの避難行動をとったのは、回答者の5%程度（85人中4人）であった。宇治市、京都市周辺では震度1から3で実際の揺れが小さかったため、避難行動までは及ばないひとが多かったようである。なお、この設問には危険なものが近くない状況だったひとは回答していない。

気象庁によるアンケート（気象庁、2012）では、「緊急地震速報を見聞きして何らかの行動をとった経験がある人は72%」となっており、全国と宇治・京都周辺（来場者）とでは大きな差がある。大地震（による揺れ）の経験や緊急地震速報の受信数の違いによるものかもしれない。

このアンケート結果から浮かびあがるのは、技術的には成功していても、活用されなかったり、活用方法が知られていない状況である。また、来場者からは、緊急地震速報は「警報の前に揺れた」という経験談や「間に合わない（ことが多いと聞いた）」などの言説もあった。活用をあきらめることがないように、丁寧な解説をしていく必要があるだろう。また、今回は予報（事業者等向けの情報）は対象にしていない。人が動けない（動かない）状況でも、被害を低減できる対策を講じる必要があるだろう。